

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【南浦和中学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	自己の可能性を最大限に伸ばし、一人の大人として、歩みを進めることができる資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1) 問題の答えを求めるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒が筋道を立てて説明する授業を実施する。【各単元の中で1回以上】 (2) 学習のねらいに対する達成状況を、スクールダッシュボード「授業アンケート」に入力させ、学びの深まりや疑問に思ったこと、自分の学び方について、ふり返ることができる時間を設定する。【授業のまとまりごと】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	重点的に育成する資質・能力の「自己の可能性を最大限に伸ばし、一人の大人として、歩みを進めることができる資質・能力」と関連する、英語の「日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ったり、概要を捉えることができるかどうかをみる」問題において、全国の平均正答率を上回った。ただし、生徒質問「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について、「できていない」と回答した割合が全国の平均正答率を下回り課題が見られた。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	・英語や数学の問題より、必要な情報を適切に読み取り、概要を捉える力について、全国の平均正答率を上回った。 ・生徒が、主体的に学習を調整する力において課題がみられる。

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学力向上策(1)については、引き続き、全教員による授業観察及び相互授業評価を実施し、生徒の表現力の向上と、主体的に学習を調整する力を向上させていきたい。学力向上策(2)については、実施率・活用率に課題が見られる。「授業アンケート」を活用した振り返りの時間を確保できるよう、校内研修等で周知する。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	(変更なし)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所